# 磐城大衆新聞

毎月二回　一日・十五日
定價　一部十錢
廣告料　一行五十錢（場所指定十錢增）
發行兼編輯印刷人　長谷川兵衛
福島縣平町研町十八番地
發行所　磐城大衆新聞社


## ◇生活線上の修養◇

### ◆反省◆

〔其ノ二〕

反省とは合せ鏡で自分の姿をみるやうにある高い教へから自分で自分を照らしてみることがある現在の自分の心をそのあるがまゝに放任して置かないで我れと我が心を啓導することである啓導する方も自分の心される方も自分の心といふのでは話にならないする方の心は教を本位とした心でされる方の心は思ふがまゝの自己本位の心を指すのである心に二つあるではないが說明上わけるとさうなる「心の師となれ」というである心に教の樞をさすことがある」心の一字が出來てゐるのも導歌の「丸くとも一角あれや人心あまり丸くは轉じやすけれ」と相對して興味の内に一つの教へを有つ前科三十六犯の或る老大盜が、今上天皇の「山色新」の御製を拜して深くみづからを反省し老ひたりといへども新生活に這入れないことはないというので遂に善心に歸つたといふ事實があるが御製を心の師としたに依つて彼れは眞人間になつたのである心に二つはないが思ふがまゝの自己本位の動く心を本位としては反省はない教を本位とした靜な心で思ふがまゝの自己本位の心を啓導してゆく處に反省がある御製に

我心われて
をり〳〵かへりみよ
知らずしらずも迷ふこ
とあり

とあるのは心の師としないで心の師となる反省を警告されたのである。

◆　◆

## 磐城共濟病院長
## 石山謙郎博士

石山謙郎博士は實際的臨床醫學の研究者にして、東京帝國大學醫學部教授吳博士の高弟である。

同博士を本會病防長に迎えるは、東大教授竹内博士の當平町に在住するに及びたるも導歌の「丸くとも一角配慮により又東大教授吳博あれや人心あまり丸くは轉士及同大助教授櫻澤博士等じやすけれ」と相對して興の深甚なる同情と盡力により同博士を推薦され同病院味の内に一つの教へを有つ長に仰ぐ次第である。

前科三十六犯の或る老大盜が、今上天皇の「山色新」の御製を拜して深くみづからを反省し老ひたりといへども新生活に這入れないことはないというので遂に善心に歸つたといふ事實があるが御製を心の師としたに依つて彼れは眞人間になつたのである心に二つはないが思ふがまゝの自己本位の動く心を本位としては反省はない教を本位とした靜な心で思ふがまゝの自己本位の心を啓導してゆく處に反省がある御製に

我心われて
をり〳〵かへりみよ
知らずしらずも迷ふこ
とあり

とあるのは心の師となる反省を警告で心の師となる反省を警告されたのである。

◆　◆

せず、斯界の最も本領とする臨床醫學に後事する事十有餘年實際に患者を取扱ふ點に於て獨特の天才を有する名醫である。

又同博士は最近完備したる傳染病院建設のため郡内各町村の應援の下に盡力しつゝある。

因に石山博士は長野縣下水内郡飯山町出身にして、大正九年六月九洲帝大醫學部卒業、同大學醫學部第一吳内科に於て内科學を研究大正十四年四月より同大學第一内科及細菌學教室に於て内科學專攻せられ、同博士の主要論文は「パラチブス」菌の變性に關する研究、附同菌の「エクトプラスマ」及「エントプラスマ」の細菌學的並に血性學的意義を研の結果學位を授與されたのである。

◆　◆


和洋銅鐵金物問屋
㊙ 釜屋商店
電話九・九九番


## 老巧の醫家
## 藤沼平次郎氏

所謂醫學博士は毎日數人づゝ粧製濫造されつゝある。

やがて醫學博士の洪水時代出現して失業苦に惱む時代も來るかも知れぬ。

博士なるが故に萬病を治し得るものではない。

各々得手不得手あり、專門特技あり、醫家としての實地の体驗豊富にあらざれば重体の病人を全治せしむる事は出來ない。

夜半病貧家の往診に狸寢入りして、不仁の擧に出づる醫者もあり、醫師果して仁術なりや!? と嚴語せざるを得ない不心得なる醫師もある。

藤沼平次郎氏は或は東京又は北海の大病院に奉職せられ幾萬の患者に接し、醫師としての實地体驗極めて豊富である。

唯實に研究室より街頭に進出したる博士先生とは全然異なつてゐる。

その患者に接するや極めて懇切、如何なる貧しき患家の往診にも決して之を拒まず徒歩にて行かれる。

警察醫として名聲嘖々、平町刀圭界に於ける老巧者としてその曇腕を歌はれて居る。

## 四倉町役場の二大柱石
### 町長　新妻盛氏
### 助役　菅波千之助氏

四倉漁港建設に直面して粉骨碎身とが實現のために東奔西走盡力したる町長新妻盛は鄕士磐城が生める大宗教家、佑天上人の血緣者として由緒正しき祖先の家系をもつ。

温情以つて町民に接し、春風以つて人を迎え、一度も怒色殺氣を見せず靜かなること林の樣である。

新妻町長は東部電氣合併前の四倉電氣會社創建者として縱横の快腕を揮はれた實業家である。

今や四倉漁港建設に直面したる大四倉町長として町民の紀對的信望を負ふて町政を司りつゝある。

助役菅波千之助氏は温厚なる事務家として町長新妻氏の女房役となり專心町政のため奉仕の生活を營む。

◆　◆

## 立志傳中の炭礦王
### 小田吉治氏

そのむかし、一個の無產階級者より身を起して、今日は立身成功したる小田氏である。まさに立志傳中の人物として滿腔の敬意を表すべきである。

あらゆる方面に新人が登場して花々しく活動しつゝある。新時代には新人の活躍ら要望してやまぬ。

織田萬吉氏は平町に於けゝ材木商業界の新人として縱横の快腕を振ひつゝある。

同氏は商機を見るに極めて敏感なる頭腦の持主にして又消防伍長として平町消防事業のために奉仕しつゝある。

## 材木商界の新人
## 織田萬吉氏

や氏の鐵志猛意は如何なる難關をも突破する勇氣の持主である。

是れ果黨少年時代より人生のあらゆる懇風慘風に心膽を修練の惡戰苦闘して鍛えあげたる結果と斷ず。

今や功成り名遂げ、何不自由なき炭礦王ではあるが曉の星を戴いて幾千の炭礦勞働者諸君を指揮して事業の第一線に立つ。

飽食暖衣、逸居して怠情なる天家の所謂資本家富豪諸君は、小田氏の日常生活の態度に學ぶべきである。

◆　◆

紺屋町青年分團幹部として分團のため活動しつゝある。過般の火災に遭過して大不幸に直面したけれども今や新築家屋成つて新武裝を整へて商戰に飛躍してゐる。同氏の大成を期してやまぬ。

## ・・・指導の權職業婦人・・・
## 清野キヨ子女史

平町產婆看護婦會長として幾多の職業婦人を輩出したる光榮ある歷史を有する同會の主盟として、清野女史は男まさりの雄々しき性格の持主である。

血生ぐさき戰場に立ち働らき赫々たる勳功を樹て、國家より之れを表彰する功勞章を授與せられた。

又趣味極めて廣く就中自然式盛花に天才的技術を發揮せられ奥許しを持たれて居る。

又社會奉仕事業として、運働會、海水浴、其他大衆の集合する催しある際など傷病者看護の第一線に立つて奉仕的に儘力される。

過般大阪市に於て開催されたる大日本醫師大會には本縣より唯一人の女性として名譽ある出席をした。

清野女史の如きは職業婦人養成者として最も權威ある指導者として推奬するに足る。

# 平町藥店見聞記

## ▼山野邊藥局

口八丁、手八丁の快男兒山野邊東次郎氏はその巨大なる肥軀を店頭に現はし、獨特のユーモーアと辛刺なる毒告を以つて來客に迎接する。その皮肉なる舌鋒は對者の心膽を寒からしむ。

正さに座談の雄として推稱すべきである。

明治藥學校出身にして錦村生れ、創業十三年、斯業界の奇才として行くとして可ならざるなき快腕を揮ふ。

## ▼小野藥舗

電話一四四

店主小野常治氏は溫厚等員の紳商にして、純生平つ子である。その堅實なる營業振りと親切第一をモットーとする營業方針は日に增し店運隆昌に赴き信用增大しつゝある。

## ▼關內藥局

電話四〇

本通リ四丁目に地の利を占めて商陣を張る。業界の長老にして業礎堅實である店主關內榮助氏は明朗なる現代人にして從つてその營業振りも極めて文化的である。月報的パムフレットを出し宣傳に努力しつつある。

## ▼堀藥局

電話三二六

一作年開業したる新藥局にして店主堀功氏は明藥出身、魁文堂堀喜一の令弟である。眞面目なる人柄にして堅實なる營業方針の下に店務に從事される。

## ▼西村藥局

電話三番

平町に於ける斯業界の橫綱格にして店主鈴木堅助氏は今や功成り名遂げて第一線より勇退して閑雅の生活を營み店務は主として邦三郎氏が之れに當つて居る箭山と號して寫眞術の天才である。

## ▼水野藥局

店主、水野清一氏は東京藥學校出身にして、創業二十年、着實なる營業方針は業界にその地歩を進め信用を博しつつある。

## ▼大平藥局

電話六四一

店主園部國安氏は高久村出身にして永らく小野藥舗の支配人として忠實に働いた。過般獨立して本通一丁目に店舗を構えて活發に營業のスタートを切つた。

明日の成功期して待つべく寸刻の怠慢なゝ奮鬪してゐる。

## ▼尙美堂藥店

電話二六八

店主椋木裕氏は平商業出身にして一昨年開店、所謂平町銀座通リに位して地の利をため店通日に增大に赴きつつある。

## ▼瀨尾藥局

電話五五三

店主瀨尾善之進氏は明治藥學校出身にして創業二十年。

溫厚なる君子として業界に重きをなし各方面に得意をもつ。

## ▼阿康藥店

電話四四

店主阿部康之助氏は苦心經營今日の大をなした。

創業正さに二十年、あらゆる苦鬪を經て今や阿康藥店として斯業界に重きをなすに至つた。

## ▼小野藥店

電五三一

小野藥店は創業二十年、店主は先年沒して後、女主人は一家の柱石となつて、生活戰線に立つてゐる。

## ▼吉田藥舗

山頭城山の一角に店舗を構えて、營々として孤軍奮鬪する快青年、吉田氏は磐中出身にして、機敏に各戶毎に巡歷して注文を受け格安に提供する。

一町民は頗る便宜を感じ、氏の勞を多として居る。


## 祝五週年記念

平町五丁目 山野邊藥局

平町四丁目 小野藥舗 電話一四四番

平町四丁目 關內藥局 電話四〇番

平町二丁目 堀藥局 電話三二六番

平町二丁目 西村藥局 電話三番

平町一丁目 水野藥局

平町一丁目 大平藥店 電話七九番

平町田町 尙美堂藥店 電話二六八

平町才槌小路 瀨尾藥局 電話五五三

平町古鍛冶町 阿康藥店 電話四四番

平町長橋町 小野藥店 電話五三一番

平町城山 吉田藥舗

磐城 共濟病院

電話六四一番

院長 醫學博士 石山謙郎

會長 井上茂作

副會長 野崎滿藏

萩原義雄